

未来は本当に大丈夫か？

低炭素社会実現に向けた取組について考え、調べ、発表しよう

9月～11月(6時間)

1 はじめに

『21世紀は環境の世紀』と言われ、未来にこの地球を引き継ぐため、生徒が環境問題をきちんと理解し、解決する能力を養うことが必要になってきている。そんな中、本校は今年度「環境教育の推進」ということで岡崎市研究委嘱を受けることになった。

地球温暖化の原因となっている二酸化炭素の排出を少なくできる「低炭素社会」を実現するため、様々な分野で行われている活動をキーワードとして生徒に提示した。生徒はそれについてグループごとに考え、調べてまとめ、発表した。そして最終的に、一人ひとりが実行できることを「低炭素社会実現宣言」としてまとめた。本レポートでは、実践の内容とその成果、課題をまとめていく。

2 実践の概要

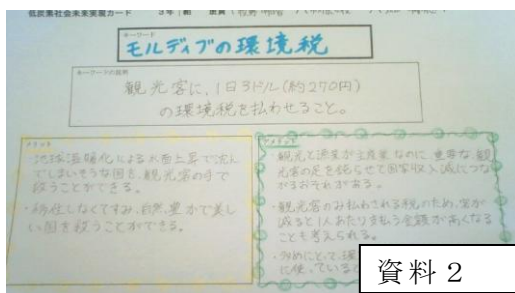
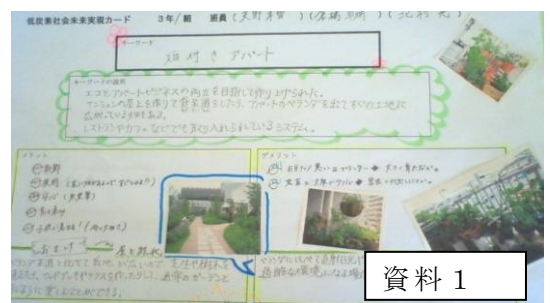
(1)低炭素社会実現に関するキーワードについてのメリット・デメリットを調べてまとめる

はじめに、岡崎市環境学習プログラムを参考に、担任がキーワードを選び、生徒に第1希望から第3希望まで選ばせた。その後、生徒の希望と人間関係、リーダー性などを考慮して担任が2～3人のグループを作った。キーワードは以下の15つである。

冷房設定28度 太陽光発電 エコポイント ヒートポンプ ゼロウェイスト宣言
カーボンオフセット 畑付きアパート バイオマス 地産地消 ごみ発電省 省エネ住宅
次世代高効率照明 フードマイレージ カーシェアリング モルディブの環境税

キーワードとグループが決まり、調べ学習に入った。パソコンを主に調べるので、信憑性のある情報を得るために、環境省やエコ学習ライブラリーのサイトを紹介した。そしてたくさんの情報を集めること、キーワード以外の言葉で意味がわからない語についても調べるように指示した。

調べ学習の次は、キーワードの説明・メリット・デメリットを低炭素社会未来実現カードにまとめた。



カードはA4サイズなので、文章はなるべく端的にし、図や写真や色を使ってわかりやすくまとめるように指示した。資料1・2は、生徒が作成したカードである。インターネットでなかなか情報が集めにくいキーワードもあったが、どの班もしっかりとまとめることができた。このカードは文化祭でも展示をして、多くの人に見てもらった。

(2)低炭素社会未来実現カードをもとに発表する

より効率よく発表するため、生徒全員に自分が聞いてみたいと思うキーワードを選ばせ、上位6つを発表することにした。生徒は自分の興味のあるものを選ぶだけでなく、しっかり理由も考えるように指示した。

選ばれた班は、教材提示機を使ってカードをモニターに映しながら発表した。発表している間、他の生徒は発表についてわかったこと、疑問に思ったことをワークシートに記入するように指示した。



(3)発表に関する意見交換をする

選ばれたすべての班の発表が終わったところで、意見交換する場を設けた。どんなことでも良いので、発言するように呼びかけた。最初に出たのは、基本的な用語に対する質問が多かった。例えば「ダイオキシンはなに?」「カーボンとはなに?」「エコポイントはどこで使える?」などだ。



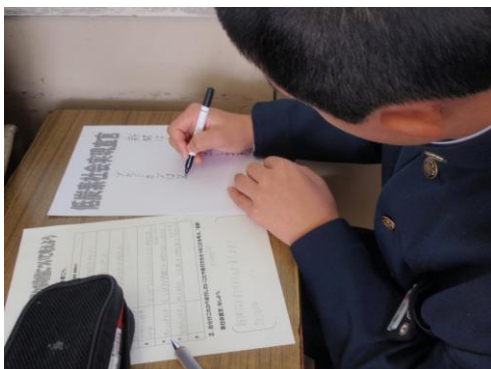
意見交換をしていく中で、生徒Aが自分の体験に基づいた質問をした。それは、冷房設定28度に関するもので、「最初に低い温度にして、それから温度を上げることは効果があるのか?」という質問だった。このキーワードについて調べた班の生徒は、この質問に答えることができなかった。しかし、ただ単に知らないことを知るだけでなく、自分の実行していることと関係付けて考えることができたのはよかった。

(4)低炭素社会実現宣言

すべての発表、意見交換、それから自分が今まで調べたことを含めて、自分には何ができるかということを生徒に考えさせた。そしてそれを「低炭素社会実現宣言」として紙に書くよう指示した。理想を述べるのではなく、自分がすぐに実行できることを書くように強調した。右記のような宣言をすることができた。

- ・暖房は午後6時からにします
- ・ビニール袋でなく、マイバックを使います
- ・ごみの分別をします
- ・車をあまり使わないで歩きます
- ・冷房設定28度に気をつけます

3 実践を振り返って



キーワードについて調べ、それを共有することで、知識を増やすことができた。しかし、もっとポイントを絞って、深い議論にするべきであった。生徒Aのように、実体験に基づいた意見が述べられる生徒を増やしていかなければならない。そのためには、自分の生活と、今回取り上げたキーワードとを結びつけて考えさせるような話し合いの場を設けるべきであった。